



発行：相模原災害ボランティアネットワーク

ホームページ：<http://ssvn.jimdo.com/>

連絡所：相模原市中央区富士見6丁目1番20号 相模原市社会福祉協議会中央ボランティアセンター

TEL：042(786)6181 FAX：042(786)6182

### 災害の振り返りと新年度に向けて

東日本大震災から7年経っても今でも多くの行方不明者がありご家族の心情は一津の寂しさを覚える半面、被災地の様変わりする復興に希望を託した複雑な心境で望んでいる方が多いのではないのでしょうか。

九州では、霧島連山の新燃岳が爆発的な噴火が相次いで発生している。我々も忘れてはならない事は、箱根の噴火が今も終息していないことではないのでしょうか。火山列島の日本国土、何時何処で発生するかも分からない、その有事の時のためにも、自助、共助、公助はご承知と思いますが、もう一度身の回りを確認して見ると近所が抜けていると思いませんか、大切なのは近所なのです。昔から「向こう三軒両隣なり」が大切とよく言ったものです。個人情報取り扱いが難しいと思いますが、有事の時には隣近所の助け合いが一番大切で心強いと思います。地区に新しく「地区防災計画」が作成されましたがその中にもわが身を守る「自助」と隣近所の「共助」の重要性が記載されています。

#### 相模原市地区防災計画の概要について

平成26年に、国の災害対策基本法が改定された。改定の中に、市町村地域防災計画の中に「地区防災計画」の創設が含まれています。

地区防災計画は義務付けられてはいませんが、市町村が必要と認めたときは、地区に地区防災計画を創案・提案させるものであります。

相模原市は、平成28年3月に「地区防災計画」を編纂し、市の「地域防災計画」に「地区防災計画編」として組み入れました。

地区防災計画の目的は、発災初期の混乱時に「自助・共助」に「地区住民等」が協力して対応できるよう「地区の防災力」を高めるための



これからの地区の防災訓練は、地区防災計画に沿ったものになると思いますので会員の方は、自分の地区の防災訓練に参加して訓練がどう変化しているかを感じ取り、多くの会員に情報の提供をお願いします。寄せられた情報をまとめて、相模原市民の防災力を理解し、ネットワークとしての協力や連携の体制づくりの検討資料にしたいと思います。

4月から新年度入りしました。会員の皆様には前年同様新年度の行事にもご協力をお願いします。

相模原災害ボランティアネットワーク

代表 中村 吉和

施策が記載されています。

地区住民等は、この施策に基づき災害時に備え防災・減災の広報・啓発や訓練を行うこと、また、発災時に地区住民等が担うべき初期消火・応急救助等の役割分担が記載されています。

地区防災計画が地区の特性に基づき「地区防災会議」で創案されていることは、「自分の身は自分で守る、自分たちの街は自分たちで守る」ことの意味表示であり、これが地区住民等に認識されなければ「地区の防災力向上」にはつながらないものと思います。

大石 努

## 防災とボランティアの集い

昨年度の来場者の少なさを反省し、今年度はポスターを作り広報を強化して再度相模大野の谷口台小学校・体育館を会場として「防災とボランティアの集い」、を開催しました。

前日の26日午後5時に、機材を搬入して準備を行い、当日は、8時30分から機材の展示を始め、9時30分からの来場者の受入れを待つ。行事に参加協力していただいた事業者のNTT東日本の方、河本防災、赤十字奉仕団相模原支部の皆さん、生活協同組合ユニーの皆さんも準備完了し来場者を待つのみとなった。

定刻前から来場者が来始めたが土曜日の休日のためかまばらな来場者が展示ブースを丁寧に見て、いろいろ質問をされていた。

高齢者の方は、NTT災害時の伝言ダイヤルで受話器を取り真剣に通話していた。生協の

ブースでは、非常食品の試食や備蓄のローリングストックの説明などを受けていた。段ボールトイレの展示や減災対策備品の展示では多くの質問を受けていた。

赤十字奉仕団相模原支部のブースでは、来場者が救急救命体験とレジ袋のおむつや隣の簡易担架では、毛布利用した担架でお母さんが子供を乗せ搬送体験をしていた。



災害時の救助機材の展示やブルーシートテント設営展示と設営時に結ぶロープワーク体験では、来場者は少ない中で中身の濃い体験をされたものと思います。

来年度の開催場所はまだ決めていませんが、地域の方のリクエストがあれば検討したいと思います。ご協力いただいた事業者の方、団体の方にお礼を申し上げます。

小野寺 弘

れない時の生活の場になることや寒風の中でもテントの中の暖かいことなどを体験しています。

授業時間は1時間40分で、終了10分前に教室に戻り、教材と一緒に渡してあるアンケートの答え合わせを行います。アンケートは、災害の種類で予防できるもの・出来ないもの、発災から時系列に対応すべき順序など、難しいと思いますがまとめの学習としています。



### 「みんないい人・福祉体験講座」

今年度の福祉体験校は前期2校、後期は11月28日・共和中学校と12月14日・由野台中学校の2校の4校でした。

講座の内容は、前半は教室で講師紹介から始め、約20分防災関連のビデオを鑑賞後に校庭に移動し、ブルーシートを利用したテント設営訓練を行います。始めにテント設営に必要なロープの結び方2通り学び理解できたところでテント設営に移ります。

生徒は1年生で30名前後の人数が多く、1テントに8~10名の生徒で班編成し、講師は2名が担当します。教材は、およそ2週間前に担当先生に届け事前学習ができるように配慮しています。

共和中学校は天候に恵まれ暖かい日でしたが、由野台中学校の当日は、風が強く寒い日でした、シートが風に煽られ設営に苦労しました。

設営後に班全員でテントに入り、避難所に入



藤田 敏美

## 災害ボランティアコーディネーター養成講座

11月25日、26日の2日間に亘り、あじさい会館を会場に養成講座が開催され、6名の参加がありました。

東日本大震災から7年経ちますが、災害発生すると生活支援のために多くのボランティアが各地の災害ボランティアセンターに赴きます。災害も広範囲になると災害ボランティアセンターも各地に設置され、多くのボランティアコーディネーターが必要になります。

この講座では、災害ボランティアセンターでの活動に必要な知識や技術と、役割等を2日間にわたり学びます。

1日目は、「地震のメカニズム」や「災害ボランティアセンターの役割」などについて学び、過去に大きな地震が発生すると、その地震に対応する建築基準の法律が整備や改正されてきた話や、ボランティアセンターの役割別の活動



内容の説明を受け受講者の皆さんは熱心に説明を聞いていました。

2日目は、災害ボランティアセンターでの活動を想定した演習になります。受講者の皆さんはグループに分かれて書式等の種類や使用の仕方等の説明を受けた後、演習を行いました。

演習では、相談者役の方から依頼の相談を受け記録したり、依頼内容に応じボランティア調整を行うなどを実際に行い受講者から「コーディネーターの重要性が分かりました」「聞き取ったり、調整したりするのは難しいですね」などの声があがっており、活動を通していろいろな事に気づいてくれたのではないのでしょうか。

今回の受講生の方から2名の方が新たに入会されました。今後の活動に期待いたします。

渡辺 薫

## 第18回 7自治会合同自主防災訓練

平成29年11月26日(日)午前9時～午後1時、双葉小学校避難所区内7自治会合同自主防災訓練を、双葉小学校を会場に実施した。

これまで阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震など大規模な地震が発生し、甚大な被害に見舞われている。本市においても首都圏直下地震等の発生が懸念されている中、私達の住む近隣や地区、関係自主防災隊が連携、協調し、平時にできる災害対策を充実しなければならない。自主防災隊の本部立ち上げや情報伝達訓練の組織的な対応訓練をここ数年実施し、成果を上げてきた。

発災直後及び想定される自主防災活動に対応した訓練、単位自主防災隊の訓練には限界があり、合同自主防災訓練の実施時に関係機関と連携し広範囲な協力体制を確立し、様々な訓練項目を実施することにより、参加者の防災意識の向上と共に関係者のスキルアップを図る。

### 訓練項目

- 1、情報伝達訓練
- 2、避難誘導訓練
- 3、初期消火訓練
- 4、救出救助訓練
- 5、応急救護訓練
- 6、給水濾過訓練
- 7、給食訓練
- 8、仮設トイレ設営訓練
- 9、要援護者支援訓練
- 10、生活支援訓練(ボランティア体験)  
A、ブルーシートテント、B、ロープワーク
- 11、起震車体験訓練
- 12、煙体験訓練
- 13、リアル避難所体験&防災ワークショップ
- 14、防災ビデオ鑑賞



清水 忠昭

## 相模原市民活動サポートセンターフェスタ 2017

11月12日(日)7時、機材を積み込んで淵野辺公園の会場へ向かう。当日は、農業祭りと子供広場も行われるので、準備の車両も多く走行して混雑していた。

3年振りの好天に恵まれ、農業祭りの会式とともに来場者が目的のブースに行列を作り始めた。フェスタ会場は9時ごろには準備も終わり9時半の会式前から客が来始めた。

SSVnは、綿菓子とホットコーヒーの販売と防災・減災の啓発チラシ配布を実施した。野菜の入った大きな袋を持った親子の方が綿菓子を買って帰られた。来店者に啓発チラシの配布を行ったが快く受け取ってくれた方が多かったように思えた。午後3時まで風もなく温かったので来場者もこれまでになく多くて

### 城山公民館・みどり学級に参加して

城山公民館から講師依頼を受け、2回の打ち合わせを経て、みどり学級の最終講座テーマ「身近なもので備える」の講師を務めました。

前半は、SSVの発足と活動内容の説明から始め、地震大国日本の環境や災害の歴史の振り返りと災害に対する備えについて、発災時は高齢者でも活動の主役として求められている等、元気でお互いの顔の見える関係作りをして置くことの重要性を伝える。

後半は、「防災とボランティアの集い」に配布した資料を事前学習していただき、その内容説明と質疑応答を行いました。参加者の中に、南相馬市から転居されている方、つくば市から転居者がいて、体験談を交えた内容になりました。

休憩時間や講座終了後の学級員との談笑の

### 2017年度後期事業報告

- \*10月21日：災害ボランティアセンターの訓練  
は台風20号接近により中止とした
- \*11月12日：市民活動センターフェスタ
- \*11月25日・26日：災害ボランティア  
コーディネーター養成講座（中央区会場）
- \*11月26日・双葉小学校区避難所運営訓練
- \*11月28日：共和中学校出前講座  
12月14日：由野台中学校出前講座
- \*2018年1月27日：防災とボランティアの集い
- \*2月10日：城山公民館主催みどり学級講座
- \*2月10日：懇親会：参加者少なく中止した

綿菓子は大忙しだった。ひよこ保育園の多くの保育士さんの協力で大きな列になることもなく終了時間前に材量が無くなり完売になった。

他のブースも時間前に完売になりフェスタも早めの終了になった。

参加協力された会員の方お疲れ様でした。



大石 努

中で相模原災害ボランティアネットワークの存在を知っている方はいなかった。

前半の発足の説明で当会の役割について、日常の活動と災害時の活動の内容を説明してあったので、当会の存在が重要であるとの理解を得られたようです。城山地区には、会員がいないので何時でも会員になれることを伝えてお願いしてあります。

大石 努



大石 努

### 2018年度前期事業(案)

- \*4月7日・8日：市民桜まつり
- \*4月28日：定期総会（あじさい会館）
- \*6月16日・17日：災害ボランティア  
コーディネーター養成講座（緑区会場）
- \*9月2日：相模原市総合防災訓練

### SSV会員募集！！

相模原災害ボランティアネットワークには何時でも入会できます。

年会費1口1,000円：個人会員1口以上、団体会員3口以上

お問合先：相模原市社会福祉協議会中央ボランティアセンター内

〒252-0236 相模原市中央区富士見6-1-20 あじさい会館

TEL042(786)6181：FAX042(786)6182